

令和5年度 指定管理業務 実績評価シート

基本様式

作成年月日

令和6年6月25日

部課名 健康こども部こども家庭課

施設名	弘前市致遠児童センター・弘前市西部児童センター・弘前市岩木児童センター
施設の設置目的	児童福祉法第40条に基づく施設として、児童福祉の向上に資することを目的とする。
所在地	別紙
指定管理者名	社会福祉法人真会
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで
<p>1 事業計画の実施状況</p> <p>感染症等の流行が見られたが、新型コロナウイルス感染症の取扱いが5類感染症に移行したことに伴い、事業計画通り実施されており、適正な管理運営が行われている。</p>	
<p>2 市民サービス向上のための取組状況</p> <p>ベビーサークル等への施設開放の実施により、地域に開かれた施設運営を行っている。児童館延長利用事業を実施し、利用者サービスの向上を図っている。利用希望調査を行い、12月29日の開館を行っている。地域の団体との交流事業を積極的に取り入れている。アンケート実施結果から見て、事業・行事への利用者の満足度は高い。</p>	
<p>3 市民ニーズの把握の実施状況</p> <p>利用者アンケートを実施(令和6年2月5日から3月2日)し、その結果を運営に反映している。苦情受付について施設内に掲示し、周知を行っている。利用者からの意見・要望に適切に対応している。</p>	
<p>4 施設の利用状況(利用者数、稼働率など)</p> <p>(致遠児童センター) 令和4年度 年間:25,845人/293日(88人/日)→令和5年度 年間:30,281人/294日(102人/日)</p> <p>(西部児童センター) 令和4年度 年間:5,681人/294日(19人/日)→令和5年度 年間:9,372人/294日(31人/日)</p> <p>(岩木児童センター) 令和4年度 年間:31,255人/292日(107人/日) →令和5年度 年間:35,630人/294日(121人/日)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行したため、休館措置がまったくなかった。登録児童数が増加し、利用児童数は、前年度より増加している。</p>	
<p>5 指定管理業務の収支状況</p> <p>法人内での給与や賃金の格差は正のため、人件費率が高いことが影響し、赤字決算となっているが、物価の高騰に対応しながらも赤字幅を減少させており、収支状況の改善の対策が講じられている。</p>	

6 実地調査の結果

利用者の安全確保に留意し、施設・設備の良好な維持管理が行われている。また、児童厚生施設として必要な各事業を感染症の予防対策を行ったうえで実施したほか、利用者及び関係団体の意見の把握、個人情報管理、施設の効率的運用、経費削減に関する取り組み、環境への配慮等、施設を適切に管理運営しており、児童の健全育成を通じた住民の福祉の向上に寄与している。

7 成果指標の達成度

成果指標は施設利用満足度であり、(前年度満足度)「89.0%」に対し実績が「85.2%」で達成度は「95.7%」となっている。

8 評価

(1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	A	成果指標達成度は若干下がったものの、アンケート結果から引き続き利用者評価も高く、適正運営がなされていると考える。	次期指定管理者へ引継ぎ済
施設の管理	A	立地、駐車場に関する不満があるも、その他に関しては、適正に対策・管理ができていると考える。	次期指定管理者へ引継ぎ済
経理の状況	C	人件費率90%超の状況が影響し、収支はマイナスとなった。	
団体の財務状況	D	3つの認定こども園における入所児童の激減により、収支は大赤字決算となった。しかし、前年度より当期活動増減差額は大幅に改善し、引き続き収支改善の取り組みを継続していく必要あり。	

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	A	法令等を遵守し、公平性を確保しながら、多くの事業を実施できており、好評が得られている。利用児童数が多い施設があるため、利用児童の様子を把握してほしいとの利用者アンケートのご意見があったが、管理施設間での職員体制の調整や非常勤職員の加配により、ニーズに対応できるような人員配置に配慮が見られる。施設利用満足度が高い。	次期指定管理者が変更になるため、事業内容等各施設の状況について、引継ぎを丁寧に実施する。
施設の管理	B	利用者の安全対策や施設・設備の維持管理、文書等の管理、緊急時対策等について、適切な管理が行われている。	次期指定管理者が変更になるため、利用者の安心・安全を第一とした、利用しやすい環境づくりについて、引継ぎを丁寧に実施する。

経理の状況	C	帳票等の整備、経理の区分について適正に実施されているものの、人件費率の高さが影響し、収支は赤字決算となったが、物価の高騰に対応しながらも赤字幅を減少させており、経費削減の努力がうかがえる。	次期指定管理者の変更により対応なし。
団体の財務状況	C	法人が運営する3つの認定こども園における入所児数の激減により、団体の収支は大幅赤字となったが、前年度より当期活動増減差額は大幅に改善しており、経理基盤の安定化に努めている。	次期指定管理者の変更により対応なし。

【評価の視点】

評価区分	評価の視点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの（適正な管理運営に加えて、更なる取組みや成果があると評価できるもの）
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの（軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの）
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準

B	問題がない
C	今後注意を要する
D	早急な改善を要する

別紙

番号	名 称	所 在 地
1	弘前市致遠児童センター	弘前市大字浜の町北一丁目8番地1
2	弘前市西部児童センター	弘前市大字高杉字神原93番地2
3	弘前市岩木児童センター	弘前市大字五代字田屋敷182番地